

令和6年度北本市立西小学校 自己評価及び学校運営協議会評価書(まとめ)

令和7年2月21日

評価項目	No.	観 点	A+B / 全体 (%)	自己評価	外部評価	
				自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
組織運営	1	本校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。	100	総授業時数の見直しを行い、指導体制に見合った計画となるよう教育課程を編成した。教育課程及び指導計画を全学年が修了する見込みである。来年度も、総授業時数の見直しを行い、教職員の負担軽減と資質能力の向上の機会を確保するとともに、学力・体力向上と読書活動の推進・充実を課題として指導計画を改善していく。	A	A
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあたっている。	100	会議・研修の時間を効果的に活用し、放課後に学年・学級事務の時間が確保できるように努めた。次年度に向けて、人事構成を鑑みながら、校務分掌を効果的に配置していく。	A	A
	3	本校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・掲示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。	100	マニュアルの整備と年度当初や大地震の際等に、再確認・共通理解を図った。事故発生時には、マニュアルに従いつつも、迅速に緊急対応を要請したり、児童・保護者対応に当たることができた。避難訓練や研修等を生かし、児童の意識を高めるとともに、教職員の緊急事態への対応力を高めている。	A	A
	4	本校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあたっている。	100	毎月実施の生徒指導委員会・いじめ問題対策委員会を通し、学校全体で共通理解を図り、共通行動がとれるようにしている。急を要する事項については、職集や臨時生徒指導委員会・いじめ問題対策委員会を開き、周知徹底と対応にあたった。	A	A
基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち着いた態度で、学習内容を理解しようとする姿勢が見られる。	100	落ち着いた態度で楽しく学校生活を送る児童が多い。一方、個別支援を要する児童が複数いる。学級担任だけでなく、学年や教務担当と連携し、学力向上支援員等の配置を工夫しながら、組織的に対応している。特別支援教育の視点から弾力的運用を活用しながら、より細やかな個別支援を行っている。	A	A
	6	教員は、学力の向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて日々の授業改善に努めている。	100	学力調査の結果から学力面における強みと課題を分析し、学力向上プランの見直しを行うとともに、課題解決に向けた指導を行っている。少人数や専科教員による指導や授業研究等を生かし、指導力の向上を図るとともに、さらなる学力向上を目指す。	A	A
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあたっている。	100	学習のきまり、西小よい子の約束等のルールを定め、年度当初に学級活動で指導したり、懇談会等で保護者に周知したりしている。授業規律を守っている児童が多いが、個別の支援や指導が必要な児童も多い。一層の共通理解・共通行動を図るとともに、全校朝会や児童集会等を活用し、児童が約束やルール等について十分に理解し、それらのルール等が定められている理由について理解できるように指導を継続していく。	A	A
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。	100	タブレットを活用した学びを推進し、個別最適な学びの一助とするとともに、家庭学習や自主勉強について、家庭からの協力や理解を得られるよう、懇談会や個人面談等で周知していく。	A	A
規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	100	全体的には、相手に聞こえる声であいさつできる児童が多い。しかし、自分から進んであいさつしたり、関わりの少ない相手にあいさつしたりすることに課題がある。まずは、教職員全員が自ら進んで模範となり、よいあいさつの仕方を示していく。また、生活委員会や児童会の取組、小中連携事業・PTAあいさつWEEKを活用し、小中や保護者と連携しながらあいさつ指導を進めていく。	A	A
	10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に応じた正しい言葉遣いができる。	100	発達の段階に応じた言葉遣いを継続して指導していく。職員室の入り方や学習用品の借り方等、年度当初だけでなく機を捉えて学級・学年で指導していく。また、言語は環境であることを念頭におき、教職員自身が正しい言葉遣いを意識し、言語感覚を向上させられるよう倫理確立委員会等で周知し、研修を実施する。	A	A
	11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。	100	対話を意識した道徳科の授業や、グループワークを取り入れた総合的な学習の時間・生活科の授業、相互尊重を基盤とした学級活動や各行事の取組等を通して、協働的な学びを促進し、キャリア教育と関連付けながら、自己有用感を高め、互いのよさを認め合う学習環境の整備や教職員の指導力の向上を図っていく。	A	A
	12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	100	生徒指導について、年度当初に共通理解を図った。生徒指導委員会を活用して、適宜確認を行い、いじめ防止対策推進委員会を同時開催し、いじめ・不登校対策・生徒指導面での課題について全職員で解決できるよう同一歩調で指導にあたっている。また、児童にも適宜、学校の約束等について指導し、規範意識を高めている。	A	A
健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。	100	新体力テストの結果から強みと課題を見付け、週1回なかよしタイム(20分休み)を活用してランニングや短縄跳び、ダンスなどを行い、楽しく体力向上を図った。体育館に常時、反復横跳びの練習ができる環境を整えたことで授業での練習機会が増加し体力向上につながった。	A	A
	14	本校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようと努力している。	100	欠席連絡や、手洗いうがいの徹底等、児童の健康面に対する意識は依然として高い。また、交通安全について、引き続き指導を徹底し、終業式など長期休業前に、機を捉えて指導し、健康で安全な学校生活が送れるようにしている。	A	A

学校の取組に関する評価と今後の改善点等

1.現状を踏まえて立案した計画に基づき全学年が教育課程及び指導計画を終了できることは、評価できます。今年度課題として明確になった点を踏まえ、来年度の改善につなげることを期待します。

2.教職員の人材育成と児童への指導の向上が両立できるよう、校務分掌の配分に努めてください。

3.マニュアルを組織で共有し、共通理解を図り、事故発生時に適切に対応できたことは評価すべき点です。引き続き、緊急時に対応できるよう、教職員と児童の意識の向上に努めてください。

4.毎月実施している生徒指導委員会・いじめ問題対策委員会、共通行動がとれるようにして、学校全体で共通理解を図っていることは、組織的な対応の点から評価できます。引き続き、組織的に対応できるよう、共通理解を深める取り組みの実施をお願いします。

2.先生の輝いている姿が子供の模範になるので自己研鑽する時間は重要です。

3.先生を見守るのが難しい昨今、様々な事を想定し、訓練する事が意識を高めていくでしょう。

1.多様な情報を収集し、そのデータを正確に分析することで問題が具現化し、より一層の向上が望める良い取組だと思います。保護者アンケートでも読書活動の点で課題となっているようですので、図書室が有効活用される提案があると良いと思います。

・PDCAサイクルの実施、マニュアルを活用した緊急時対応、学校全体で共通理解を図る対策等、確実に実施するには、各教職員の方々の意識の高さ、資質の高さが必要になってくると思います。限られた勤務時間でそれらが実践されている事は西小学校運営の為、同じ方向を向き生徒指導にあたっているおかげだと思います。

4.急を要する場合は、臨時の委員会を開くなど、改善されています。

・適正に評価、改善に向けた取り組みが検討されていると思います。引き続きよろしくお願ひいたします。

○事故やトラブル等に対するマニュアルの作成や、毎月実施されている生徒指導委員会やいじめ問題対策委員会等により、先生方の中で共通認識を持ち、組織的に対応しようという意識の高さを感じました。今後ともよくお願いします。

・日々の教育活動の他、道徳教育の研究発表や学校運営協議会での説明等を拝見し、西小全体が組織的かつ機動的に学校運営に取り組んでいることがうかがえます。

・マニュアル等は、実物を拝見しているため、適切かどうかを判断が難しいですが、大きな事故が起こっていないことから考えると、教職員全員がマニュアルを適切に活用しているものと考えます。

5.授業の様子を見ましたが、児童が積極的に、授業に臨んでいたのが印象的でした。個別で支援を要する児童には、個々の状況に合わせた細やかな対応をお願いします。

6.県学力・学習状況調査の結果などの客観的なデータを分析して現状を把握し、改善策を講じているとの説明を受けました。引き続き、良い面を伸ばし、悪い点を分析し、指導方法を工夫していくようお願いいたします。

7.学校内の掲示物などにより積極的に規律ある生活の定着を図っていることを確認しました。規律の徹底は、学校教員だけでは達成できない課題であると考えます。保護者周知等、多角的な視点から、改善を試みていただくをお願いします。

8.学習習慣は、家庭の意識の影響を大きく受けると考えます。児童に適切な家庭学習や自主勉強の習慣が身につくよう、引き続き、家庭への働きかけをお願いします。

9.学力調査の結果を基に具体的な生徒指導や取り組みを共有し、課題解決に向けまにPDCAサイクルを活用した取り組みをされていると思います。また、授業参観を拝見してタブレットのみに頼ることなく、ノートやシートを活用し、自身の考えを文章にまとめる時間を取る事は学力の向上に繋がると思います。

9.タブレットを活用した学びは家庭学習や自主学習への各口をつかみやすくなる手段の一つだと思います。活用にあたってのルールは必要でしょうが、時代に合わせた指導も必要だと思います。

○先生方の分析、そして次年度に向けての課題、大変と思いますがぜひ続けてほしいと思います。

5.3学期に入り、授業参観をさせて頂きました。各学年とも、特に1年生に落ち着いた姿が出て来ました。先生方の工夫・指導の結果が表れつつあります。

6.生徒数が多いことから、少人数や専科教員による指導は月日も掛かることから、綿密に実施計画が必要と思われるます。先生方の努力に感謝します。

8.3年生がぐいになると、タブレットの使い方も理解しているようです。(授業参観により)近年、共働きが増え、家庭での学習に親が付き合えない時間が増え、問題に陥るとそのままでは、タブレット活用により導きやすくなるので、理解が早まり、良い結果に繋がっていると思います。

・授業中も、どの学年も態度もよく積極的に参加できていると感じました。

・個別対応が必要な生徒に対しても、学校全体で共有して対応していると感じました。引き続きよろしくお願ひいたします。

○家庭学習について保護者より色々な意見がございまして、個人的に今の宿題の量は、丁度良いと思っています。宿題を増やして欲しいと思っているご家庭には、埼玉県等で公表されているワークシートや、タブレットで予習復習が出来るようなアプリ等をおすすめてくださるとうれしいと思います。

・児童が一生懸命授業に取り組む様子を見られ、基礎学力の向上に向けて教職員が努力していることが分かります。

・学区の中学校としては、小学校6年間で学んだことを土台として確実に引き継ぎ、さらに発展・向上させていきたいと思っています。特に、目指す児童生徒像にある「自ら学びに向かう」「学びから逃げない」姿勢を育てていくことが重要な世帯であるのだと思います。

9.学校に来るといつも、児童と教職員が元気な声であいさつをしてくれて、とても清々しい気持ちになりました。教職員は引き続き、率先垂範で児童への指導をお願いします。

10.言葉遣いは、人間関係を円滑にさせるうえで最も重要なものであると認識します。研修等を通して適切な知識を身に付け、発達段階に応じた適切な指導を実施するよう、お願いします。

11.道徳の授業を拝見しましたが、どの授業も認知的で、とても驚きました。授業内容を適切に引き継ぎ、さらに磨き上げ、児童がお互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送れるよう、引き続き、指導をお願いします。

12.生徒指導委員会やいじめ防止対策推進委員会を通して、生徒指導について共通理解を図って児童への指導を行っていることは、とても有益であると考えます。約束を守ることは、生きていくうえでとても重要なことですので、小・中・高と一貫して、向上を目指して取り組んでいくようにお願いいたします。

○あいさつがとてよくできるよう感じています。(コロナ前と比較)

○声が出せない子達はおきながら、自分からあいさつをしているので、このまま継続をよろしくお願いいたします。

○対面・対話が人間関係の基本なので、前向きに取り組んでほしい。

9.西小を訪問する度に挨拶してくれる児童が増えている気がします。教職員の方々の様々な取組の結果だと思います。

10.言葉遣いは自分の事を印象付ける手段でもあるので、年齢に応じた正しい言葉遣いすることは大切です。社会に出たらでも通じるなかで引き続き指導のほどよろしくお願ひします。

11.授業を拝見するなどで、相互尊重を基盤とした発言を耳にし感じられました。授業を進行する中で指導者の声のかけが、大変重要になっている事を痛感しました。

○大きな声でこいにはじと聞かれます。全員ではありませんが。子どもたちの自己評価でも昨年度より伸びています。引き続き声のかけをして指導をお願いします。

○言葉づかいについては、学校だけではむずかしいところもあり、家庭との連携をお願いします。

11.道徳の時間を参観させて頂きました。各学年、各教室ごとに、テーマを決めて、積極的に意見が出され、先生がしっかりと導いておりました。低学年(1年生)も、落ち着いた、意見を聞いておりました。

・授業は、生徒が前向きに参加できるよう工夫されていると感じました。

・あいさつに関しては、家庭でも共有しながら取り組むを継続していくことが必要であると感じています。

○生活の基本である、あいさつ指導にも取り付けてあげたいと考えています。自ら進んであいさつをするようになるのは、なかなか難しいと思いますが、引き続きご指導よろしくお願ひいたします。家庭でも、進んであいさつできるよう声かけ等をしていきたいと思っています。

・あいさつについては、北本市でも課題の1つに挙がっています。発展の段階でもあります。小学校でできていることが中学校に入るといつの間にかできなくなってしまうことが、たくさんあるのではないかと感じています。その意味でも、小・中一貫教育の重要性を感じます。

13.新体力テストの結果を分析し、弱みの改善に取り組んでいることを確認しました。長所を伸ばし、短所を克服する取組を期待します。

14.健康や安全についての対策は、意識付けしたうえで習慣化が大切ですので、引き続き、指導の徹底に努めてください。

○勉強する集中力を維持するのもすべて教員が必要です。

○心身ともに健康があって学びがあるので、そこは十分に確保しなければなりません。

13.楽しく体力向上ができる提案は自発的な活動に繋がると良いと思います。是非、継続して実施してください。児童のニーズを拾い新しい提案の導入も良いのでは…と思います。

継続してお願いいたします。

○縄跳びやダンス等で運動することにより、楽しみながら体力向上できていると思います。反復横跳びに關しまして、問題点を考え改善し、良い結果が出たのは、平日頃から子どもたちのことを良く見てくださっているからだと思いました。

・持久走大会の結果発表を給食時間に放送で行うなど、体力向上に向けた取組は適切であると考えます。

保護者・地域・異校種間連携	15	自校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。	100	PTAあいさつWEEKでは、PTA役員と教職員で、あいさつ運動を行った。また、運動会では、PTAと協力して、準備・片付けを行った。保護者のボランティアとしての参加も多く、日頃のPTA活動の成果である。土曜公開に合わせ、PTA親子清掃を実施し、保護者と協力して教育環境を整えることができた。	A	A	15.PTA役員と教職員が連携し、ともに活動している姿を児童が見ることができる機会は、児童にとって、とても有益であると考えます。引き続き、PTAや地域の方々と協力して、児童を見守る活動を広げていただくことを期待します。 16.HPIにおいて学校運営協議会の議事録が公開されるなど、情報の公開が推進されていると感じます。メール配信を通じた保護者への情報提供も充実していると感じます。引き続き、開かれた学校の情報提供を期待します。 17.スクールガードリーダーや地域の方との連携で、児童の下校の安全を守っていただいていると感じます。引き続き、良好な関係を継続していただようお願いします。 18.学校区内外のせきね幼稚園と交流会を実施できたことは、幼から小への移行を適切に実施する上で、とても有効なものと認識します。また、北本中学校とも連携を行っており、小から中の接続にも配慮されていることから、引き続き、この取組を継続していただくようお願いします。 19.〇多くの学びを得ていることでしょう。 〇非認知能力になるかもしれませんが、対人関わる人生の方が長いので、この能力を高める必要を感じます。 16.保護者からの声に、「学級通信でクラスの様子に分かり楽しみに読んでいる」という声がありました。安心してお子さんを送り出せる要因になっていると思います。 17.不審者情報が増加している昨今、地域の方々と保護者有志の協力は必須となってきていると思います。 18.異校種間の連携は、〇〇の壁を低くするうえでも重要だと思います。と同時に下年齢の子への思いやりや上級生への憧れに繋がりに優れていると思います。 〇各種たよりの配信については、保護者より、学校の様子が変わり親子の繋がりもふえているようです。ぜひ継続を。 ・中学校との交流は、子どもたちが安心して進級でき、またよい刺激を受ける機会になると思います。引き続きよろしくお願いいたします。 〇各種たよりのメール配信してくださっている事に、子どものおたよりの渡し応にによる行事等の見落としが減っていると思います。外出先でも直ぐに学校の予定や下校時間等が確認できるので、とてもありがたいと思っています。 ・年間をととして、保護者や地域との連携は活発に行われていると思います。 〇小中連携では、児童生徒の交流、教員の交流などを積極的に推進していただいています。教員の交流については、努力対効果を上げられるよう、小中が一緒に実施方法を研究していく必要があると考えます。
	16	自校は、各種たよりのホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	100	メール配信を活用して、学校だよりや各種たよりで教育活動の様子を保護者に伝えとともに、ホームページについても行事や学期末等に更新を行った。今後も継続し、保護者や地域への情報提供を行っていく。	A	A	
	17	自校は、保護者や地域と連携し不審者対策のバロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。	100	教務による毎日の登校指導や学級担任による下校指導、不審者情報の発信や安全に関わる学級指導を行い、安全を確保できた。今後もスクールガードリーダーや地域の方々の協力をいただきながら、取組を継続していく。また、次年度以降は、保護者からの協力も積極的に得ていきたい。	A	A	
	18	自校は、異校種間(幼保小、中高等)の連携を積極的に推進している。	100	幼保小連携事業としての連絡会や、せきね幼稚園との交流会を実施することができた。小中連携サミットや歌声交流、部活動体験や受入れ(あいさつ)運動など、小中連携で実施した事業もある。次年度に向け、職員の授業参観も含め、連携事業をさらに充実していく。	A	A	
学校独自の項目(安全事故防止)	19	自校は、児童が安全に登下校できるよう指導している。	100	安全指導の積み重ねの成果から、大きな事故なく、登下校できている。しかし、登下校のマナーについて、地域の方からご指摘を受けたり、保護者から相談を受けたりすることもある。引き続き、地域や保護者の協力を得ながら指導と登下校の見守りを実施していく。	A	A	19.登下校時に大きな事故がなかったことは、安全指導の取組の大きな成果であると認めます。マナーについては、地域の方からの指摘や保護者からの相談改善の機会を受け止め、適切な対策が講じられることを期待します。 20.保健集会や放送などの機会を把握し、手洗いうがいなど、児童への適切な指導をお願いします。 21.学校運営協議会での説明を受け、校内での対応方法のルール化と、その共有が図られていることを確認しました。問題が発生した時には、報・連・相の徹底等を通して、引き続き、適切な対応をお願いします。 22.施設・設備の不具合の発見・修繕、そして、修繕がでないときの教育委員会への改善要請など、引き続き、ケースに応じた対応をお願いします。 23.学校運営協議会においても電子黒板を活用して様々な説明を受けるとともに、授業においても効果的に電子黒板を活用されていきます。引き続き、活用方法について研究し、効果的に活用するよう、お願いします。 〇義務教育である以上、安心・安全に通えるのは必須です。いつも目配り、気配りありがとうございます。 19.下校時間になると校内での緊張が解れ羽目を外しそらなりお子さんものるのかもしれない。大きな事故に繋がる要因 になりにくいので、地域の方や保護者の協力を得ながらご指導・見守りをお願いいたします。 20.今年度は様々な感染症が流行しています。個々の意識を高め予防していく事が重要だと思います。 〇それぞれの立場での安全点検、とてもよいと思います。不具合についても早期に対処していただき事故につながらないことを祈ります。 〇ICT機器の活用については、幅広く、そして早い速度で進化していると感じられます。今後もよりよい活用をお願いします。 19.下校時に少し難があり、「感謝の会」などで、マナーをアピールしたかどうか。(下校時は、広がってしまっている) 校内に注意喚起の目印やお知らせがあり、生徒が分かりやすく安全に過ごせるよう配慮されていました。先生方の負担になってしまっても構いませんが、定期的に更新することで生徒の意識が継続できると思います。よろしくお伝えいたします。 〇登下校中の交通ルールに関する指導、自転車に対する指導等ありがとうございます。子どもたちの交通安全に対する意識が高まっていると思います。慣れてくると油断してまいがですので、引き続き指導と見守りをお願いします。家庭でも、登校時に一言声をかけて交通安全を意識させたいと思います。 ・登下校の安全確保については、教職員の目配りから起こることへの対応は難しい。保護者や地域が、子供を学校に送り出す者として認識していただくとありがたいです。 ・校門施設・設備における安全上の指摘や配慮は、適切に行われていると考えています。今後も、教職員一人一人が児童の目線に立って危険を見つけていく姿勢を大切にしていってください。
	20	感染症拡大防止に係る対策を行い児童や職員の健康及び安全に努めている。	100	欠席連絡の入力や連絡、手洗いうがい、換気等感染症対策の徹底を行い、感染症拡大防止に努めている。また、保健集会や放送等で啓発している。	A	A	
	21	家庭との連絡から得た情報を校内で共有し、保護者と校内組織が連携して問題に対応している。	100	学年主任を中心とし、学年での指導に重点を置きながら、報・連・相を徹底するとともに、記録を残すことで、校内で共有化を図り、組織として問題に対応できるよう努めている。また、必要に応じて、外部組織と連携し、問題の早期解決を図っている。	A	A	
	22	施設・設備の不具合所の発見に努め、修繕している。	100	教職員による毎月の安全点検、PTA役員及び学校運営委員会による点検を実施した。不具合については、修繕に努めた。用務員やSSS、西小サポーターの協力を得ながら、修繕を進めている。年度予算では、修繕しきれないものについては、教育委員会に改善申請を行い、早期解決を目指していく。	A	A	
	23	教育効果を高めるように教科書、教具を活用している。	100	GIGAスクール構想の推進に向けて、ICT機器を活用した授業展開を行った。各教科・領域・学年主任を中心に、効果的な教育備品の活用や管理・整頓を進めている。今後も、予算を十分に活用し、不足している備品の購入計画を進めていく。	A	A	
学校独自の項目(豊かな心の教育)	24	教室や校舎内の掲示・展示は、教育効果を高めるよう工夫し、環境美化を通して豊かな心が育つよう、きれいな学校づくりを推進している。	100	各学級や委員会、図書、保健、西小サポーターなどにより掲示物の充実を図っている。道徳教育推進モデル校の本発表をよい機会と捉え、掲示物の一新した。次年度も、様々な行事や公開日等をめやすに、掲示物の一新を図っている。	A	A	24.学校見学を通して、教室や校舎内の掲示・展示がきれいにわかりやすく行われていることを確認しました。また、機会をとらえて既存の掲示物を見直し、一新した取組も評価できます。 25.道徳の授業を児童が生き生きと受けていることがとても印象的でした。道徳教育は、西小が誇るべき特色あるものであると評価します。引き続き、西小の強みを継承していくとともに、キャリア教育と関連付けて実施することで、児童の更なる成長につけていくよう、期待します。 26.大人の姿を認識し、相互に認め合い生きていくことの重要性が高まっていると感じます。引き続き、教職員を対象とした研修を通して人権意識の高揚を図るとともに、より効果的なインクルーシブ教育の推進を期待します。 〇とても明るい雰囲気です。掲示物も毎回変わっているのでもっと感じています。 〇子供は個性がなく素直に育つのは守られているからですね。 24.廊下を歩くとき季節に合った壁面を目にして驚かれます。西小の児童も同様に季節を感じながら学校生活を楽しくていいます。 25.道徳の授業を拝見して児童ひとりひとりが意欲的に道徳のテーマに取り組んでいる様子が見えました。道徳的な判断力を培う事は、自己肯定感を高め相互尊重に繋がる事と思います。 27.生徒指導と特別支援のバランスをとる事は、クラス運営を進めたい中で大変難しい事だと思います。教職員の方々に心の余裕が無いと出来な事だと思っています。 〇季節や行事等を感じる掲示があり、素晴らしいです。引き続きお願いします。 〇授業参観を通し、本当に幅広い道徳、工夫された道徳をみる事ができ、とてもよかったです。先生方の工夫を感じます。 24.授業参観を含め、学校内を見え回るのが楽しみです。目標があり、途中経過も表示するなど、結果を見るのが楽しみです。 25.道徳の授業は、席を向い合せにするなど、工夫して意見を述べ合う仲間をしっかりと見て、聞いていた。 ・図書室は、興味を持てるような工夫がされていました。また、廊下や階段などにも学校活動の様子が表示されており、良い取り組みを学校全体で共有できるようになっていました。 ・道徳教育が全教科と連携して進められており、心を育める取り組みがされていました。継続してお願いいたします。 〇学校運営協議会にて道徳の授業を拝見させて頂きましたが、各学年に合わせた道徳指導をされていると感じました。授業に使う小物等の準備がしっかりされており、道徳教育への力の入り具合を感じました。今後とも同様にご指導いただければと思います。 ・道徳教育に関する研究を進めていただき、大きな成果を得たことと思います。研究委員が終わった後に、その成果や取組などを継続させていか、あるいは最も重要なポイントなのかもしれません。 ・通常学級と特別支援学級の交流や障害への理解について、積極的に取り組んでいただいていると考えます。北本中では、特別支援教育への理解が大きな課題となっています。生徒だけでなく、教職員も巻き込んで課題解決を図っていかねばならないと考えているので、西小での取組を北本中でも参考にしたいと考えています。
	25	道徳教育や体験活動を通して、心の教育(特に思いやりや共生の自覚、豊かな心を育てること)を充実させる指導を行っている。	100	道徳科の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を行うとともに、別業に基づいて、全教育活動で道徳的視点を意識した指導を行った。学校課題研究である小中一貫教育(令和の日本型学校教育の構築と基礎的・汎用的能力の育成)に向けて、道徳教育とキャリア教育を関連付け、心の教育を充実させていく。他教科・領域との関わりを生かし、体験活動も増やしていき、さらなる充実を図る。	A	A	
	26	すべての教育活動の場で人権意識の高揚を図り、具体的に指導を行っている。	100	夏季研修にて、人権教育に関する研修を行い、教職員の人権意識の高揚を図った。あわせて、人権作文や人権標語に取り組み、校内に掲示した。いじめ撲滅週月間の取組も行い、道徳教育と関連付けながら児童の人権感覚の育成を図った。引き続き、人権意識の醸成・高揚を目指した指導を行っている。	A	A	
	27	通常学級とひまわり学級の児童との交流教育を進めている。また、特別支援教育から学んだことを学級経営に生かす。通常学級における配慮を必要とする児童の支援をしている。	100	通常学級とひまわり学級の交流を行いながら、障害に対する理解を深めている。また、通常学級に在籍している児童で、配慮を要する児童について、状況に応じて、ひまわり学級での授業を行うなど支援を図っている。次年度に向けて、定期的に授業交流情報交換会を開き、共通理解を図りながら進めていく。また、生徒指導と特別支援教育のあり方について再度確認し、指導と支援のバランスをしっかりとった教育活動を展開していくために、春季・夏季休業中には、生徒指導・特別支援教育の研修を行い、全職員の資質能力の向上を図る。	A	A	

学校独自の項目（学力向上）	28	学校課題研究(学校4・3・2制)、及び各校内研修等に、積極的に取り組んでいる。	100	学校4・3・2制については、令和4年度までの委嘱研究を基礎とし、新たな研究課題について研究を進めた。また、学校課題研究として「県道徳モデル校」の委嘱を受け、実践を積み、本発表を無事に終えることができた。しかし、研究の負担が一部の職員に集中する場面も見られたため、次の研究に向け、役割分担を明確にするとともに、適宜見直し・改善を図っていく。また、学校4・3・2制の本発表に向けて、研究のまとめとなるよう、改めて3校共通のテーマ、研究主題、目指す児童生徒像等に立ち返り、これまでの取組を振り返るとともに、児童・職員の変容を見取っている。	A	A	28「県道徳モデル校」において実施した事業を振り返り、「研究の負担が一部の職員に集中する場面も見られた」と自己評価したこととは、実績を整理し、改善につなげるためにいへん重要な視点であったと認識します。課題であった点は、将来的に適切に改善できるようなめるとともに、児童の年齢に応じた学びの連続性を担保できるよう、学校4・3・2制の推進をお願いします。 29児童一人一人の理解度の差がある中で、その特性や学習達成度に応じた指導はとてまいいへんであるものと考えます。働き方改革との両立や、多くの苦勞があることははいますが、引き続き、児童一人一人に寄り添った取り組みをお願いします。 31授業見学の際は、どのクラスも児童の元気で活発に授業に参加している姿を見ることができました。近年、人と人との直接のコミュニケーションを苦手とする若者が増えていると聞きます。引き続き、取組を続けることで、西小学校の児童たちが自分の意見を自分の言葉で適切に相手に伝えることができるよう成長してくれることを期待しています。
	29	少人数指導（TT含む）等の指導を意識し、指導方法や学習形態の工夫改善し、授業改善を積極的に進めている。	100	少人数指導を実施したりTTでの指導を実施したりすることができ、きめ細かな指導を行うことができた。また、各教科の授業改善プランと学力向上プランの見直し、県学力・学習状況調査の分析の仕方を見直し、児童一人一人の特性や学習到達度に応じた指導方法の充実を図ることができた。継続し、学力のさらなる向上を目指していく。	A	A	32クラブ活動や委員会活動、学校行事は、児童が授業以外で、多様な経験ができる貴重な機会であると考えます。引き続き、クラブ活動や委員会活動、学校行事の充実を工夫し、児童にとって有意義なものとしていただくと、お願いします。 33タブレットは、現代において、誰でも活用できなくてはならないツールであると認識しますが、その活用スキルの向上は、学校の活用方法によって異なってくるものと考えます。また、教育活動に有効に活用することにより、学力の向上においても、学校間の格差を生むものであると考えます。引き続き、効果的な活用の検討と実践をお願いします。 ○成長差が大きいの年ごろでもあるので、少人数指導はありがたいです。 ○何を学んだのかを発表する機会も増えて、インプットのみならずアウトプットによって記憶にも残ることでしょう。 ○日本人は大人では継続する学びをしないとニュースで伝えられましたが、学びの楽しさと継続が今後の課題になるのでしょうか？ ○変動的な学校では得られないのでより豊かな人生を送るために学びは重要です。 29運営委員会で限られた教職員の人数で少人数指導の大変さを感じ、児童ひとりひとりの学力向上のためのご苦勞が預かります。 30児童の身近なところに視点を置き、キャリア教育と道徳教育と関連付けながら実践していくことが、児童が自身の将来を見据える上で重要だと思います。 33GIGAスクール構想の実現に向け計画的に進行されていると感じています。教育活動へのICT機器の導入は教職員の業務軽減に有効と考えております。なので児童への情報モラル教育とメディアリテラシーがさらに重要になると思います。 ○少人数指導については、先生方が一人一人に行き届き大切なことだと思います。ぜひ継続してほしいと思います。
	30	「ゆずりは学習」総合的な学習の時間）の実践に当たり、実態を生かした特色ある指導計画を工夫改善し、積極的に地域の人材活用等外部指導者との連携を行っている。	100	未来の北本市をテーマに、市内の人・もの・ことに関わる学習を展開した。キャリア教育・道徳教育と関連付けながら、令和4年度までの成果をさらに生かし、外部人材（人材）の活用を進め、体験的な活動を取り入れながら実感をともなった気付きが得られる教育活動を目指して展開している。そして、さらに学校課題研究の充実を図っていく。	A	A	30児童の身近なところに視点を置き、キャリア教育と道徳教育と関連付けながら実践していくことが、児童が自身の将来を見据える上で重要だと思います。 33GIGAスクール構想の実現に向け計画的に進行されていると感じています。教育活動へのICT機器の導入は教職員の業務軽減に有効と考えております。なので児童への情報モラル教育とメディアリテラシーがさらに重要になると思います。 ○少人数指導については、先生方が一人一人に行き届き大切なことだと思います。ぜひ継続してほしいと思います。
	31	話し合い活動は、児童が主体的に参加できるように指導している。	100	各教科指導において、話し合い活動の充実を図り、個人の考えを共有したり、協働して課題解決を図ったりしながら、自己の思考を広げる授業を展開している。特に、道徳科の授業では、対話を重視した。今後は、さらに表現力を豊かにする工夫を加えていく。	A	A	○個別対応が必要な生徒が増えている中で、学力向上の取り組みは大変なこと多いと思いますが、丁寧に分析して対応の検討がされていると思います。引き続きよろしくお願ひいたします。 ○授業中、意見を交換する場面が多くなりました。どのクラスも全員参加できている様子がありました。引き続き、よろしくお願ひいたします。 ○精神的に学力向上に向けて工夫していただけたらと思います。 ○精神的に学力向上に向けて工夫していただけたらと思います。今後、さらにICT機器が教育に導入されていくと思いますので、学校の授業でタブレットの操作方法やタイピング指導等、より力を入れて指導いただけたらと思います。
	32	クラブ活動や委員会活動、学校行事に対し、児童が主体的に参加できるよう工夫改善し、指導している。	100	委員会活動では、年間の計画を意識し、業前の集いや学校行事を活用しながら、各委員会が工夫した活動を行った。次年度に向けて、基礎的・汎用的能力の育成を視野にいれつつ、さらに自治的な活動を増やしていく。合わせて、クラブ活動においても、児童の自治的な活動を推進していく。	A	A	○精神的に学力向上に向けて工夫していただけたらと思います。 ○精神的に学力向上に向けて工夫していただけたらと思います。今後、さらにICT機器が教育に導入されていくと思いますので、学校の授業でタブレットの操作方法やタイピング指導等、より力を入れて指導いただけたらと思います。
（学校独自項目）	33	GIGAスクール構想の実現に向けて、教育活動にICT機器を安全に利用できるように手立てを講じている。	100	タブレットを毎日持ち帰ることで、家庭学習での活用のほか、学級閉鎖や出席停止の際には、オンラインで授業を受けることができるようにした。ただし、低学年については、持ち帰りの荷物の重量を減らすため、必要とときの持ち帰ることとした。GIGAスクール構想によるタブレット端末の活用も実践を積みことができ、様々な場面で活用することができた。情報モラル教育やメディアリテラシーについても、道徳科や社会科、総合的な学習の時間、特別活動等と結びつけながら、発達段階に合わせて指導することができた。今後も継続していく。	A	A	34働き方改革の実施と社会的に求められる期待に応えることは、とても両立が難しいことであると認識しますが、その中で、限られた時間を有効に活用し、効率性を高める取組を進めていること、とても評価をいたします。教員の心の安定は、授業のパフォーマンスに大きく影響を与えるとともに、児童にも影響を与えるものと考えます。引き続き、教育の質の向上と教職員の労働負担のバランスを取りながら、業務を推進していただくよう、お願ひします。 ○宿題は自己責任でいいと思います。各家庭でどのように学びをとらえているのか、採点する時間を減らせます。学校ではきっかけを与え、継続するのは本人、又は、記憶してなくてはいけません。 34ICT機器を活用し教職員の方々の業務は少しずつではありますが軽減できているように感じます。しかし、改善業務を軽減させていくとまだ見直せる部分がある事、合理化出来る部分がある事が感じられます。教職員の方々が心身ともに健康な状態にいられる環境を整えていく事を望んでいます。 ○先生方の時間外在校等時間が減少しないというところがあるようですが、業務の負担が少しでも軽くなるよう改めての見直しができるとういと思います。 34先方内容から、先生方の業務の削減は大変難しく、日々、努力されていると感じています。 働き方改革は、子どもたちにも大きく影響することであるため、引き続きよろしくお願ひいたします。 ○働き方改革につきましては、市教育委員会だけでなく、社会全体の問題でもあり、早朝出勤や持ち帰り業務等、教職員の方々にご負担を強いていると感じています。子どもたちのために、働き過ぎで先生方に負担がかかりすぎては、よい良い指導が難しくなると思います。少しでも負担軽減に繋がる取り組みがあれば、試験的にでも実施していただければと思います。 働き方改革の1要素である時間外在校等時間の縮減については、学校として努力していると考えられます。 改善をとおして、児童と向き合う時間が増大したか、私生活の要素が固れたかなども、見取っていくとういのでは
	34	業務の削減や行事の精選、校務の整理等を通して、働き方改革を進めている。	100	業務内容の整理や学校行事の精選を行いながら、在校時間の削減を図っている。総時数の削減、給食開始時期の変更、会議・研修時間の短縮、通知表様式の見直し、ICT機器の活用、SSSとの連携の強化、西小サポーターやPTAとの連携の強化・促進等を進めてきた。時間外在校等時間の学校としての平均は6月以降減少傾向にある。しかし、依然、時間外在校等時間が減少しない時期や働き方改革が進んでいない業務等がある。次年度は、さらに総時数の削減を行い、会議・研修の回数や進め方の見直し、さらなるICT機器の活用、また、業務改善と時間外在校等時間に対する職員の意識改革等を進めていく必要がある。教職員が心身ともに健康な状態に児童と向き合えるように、行事内容を見直したり、校務分掌の調整を行っていく。	A	A	34働き方改革の実施と社会的に求められる期待に応えることは、とても両立が難しいことであると認識しますが、その中で、限られた時間を有効に活用し、効率性を高める取組を進めていること、とても評価をいたします。教員の心の安定は、授業のパフォーマンスに大きく影響を与えるとともに、児童にも影響を与えるものと考えます。引き続き、教育の質の向上と教職員の労働負担のバランスを取りながら、業務を推進していただくよう、お願ひします。 ○宿題は自己責任でいいと思います。各家庭でどのように学びをとらえているのか、採点する時間を減らせます。学校ではきっかけを与え、継続するのは本人、又は、記憶してなくてはいけません。 34ICT機器を活用し教職員の方々の業務は少しずつではありますが軽減できているように感じます。しかし、改善業務を軽減させていくとまだ見直せる部分がある事、合理化出来る部分がある事が感じられます。教職員の方々が心身ともに健康な状態にいられる環境を整えていく事を望んでいます。 ○先生方の時間外在校等時間が減少しないというところがあるようですが、業務の負担が少しでも軽くなるよう改めての見直しができるとういと思います。 34先方内容から、先生方の業務の削減は大変難しく、日々、努力されていると感じています。 働き方改革は、子どもたちにも大きく影響することであるため、引き続きよろしくお願ひいたします。 ○働き方改革につきましては、市教育委員会だけでなく、社会全体の問題でもあり、早朝出勤や持ち帰り業務等、教職員の方々にご負担を強いていると感じています。子どもたちのために、働き過ぎで先生方に負担がかかりすぎては、よい良い指導が難しくなると思います。少しでも負担軽減に繋がる取り組みがあれば、試験的にでも実施していただければと思います。 働き方改革の1要素である時間外在校等時間の縮減については、学校として努力していると考えられます。 改善をとおして、児童と向き合う時間が増大したか、私生活の要素が固れたかなども、見取っていくとういのでは
来年度の重点目標（共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて）					学校運営協議会の総評		
1 学力向上(進んで学ぶ子) ・埼玉県学力・学習状況調査の結果を活用して、児童の強みと課題を分析し、課題解決に向け、指導方法の工夫改善を図るとともに、十分な教材研究の時間が確保できるよう、教員の資質能力の向上を図るよう研修・自己研鑽の時間を確保した。教科専科を生かした指導を展開した。特に、 ・ICT機器を使用した指導の充実と専科による指導、教員の指導力の向上を通し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を図る。 ・読書活動を大切にし、読み取る力の育成と多面的・多角的な見方・思考の育成につなげる。 2 豊かな心(思いやりのある子) ・道徳教育の充実を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図るとともに、行事等を中心とした体験的な活動を重視し、実感を伴った気付きをもとに基礎的・汎用的能力の育成を図る。 ・あいさつ、正しい言葉遣い、正しい姿勢など、基本的な生活習慣や規律について、教職員が手本となつて行い、指導の徹底を図るとともに、実践の場を意図的に設け、自身の成長の実感と達成感を味わわせることで自己肯定感を伸ばす。 ・縦割り遊び等を活用し、異学年交流を図るとともに、自治的な活動を設定し、発達の段階に合わせた言動や判断力、自主性を育む。 ・道徳教育と特別活動を結びつけて指導し、学校行事等の集団活動における自主的、実践的な取組を計画的に行い、多様な他者との協働や自己実現を通して、児童自身が互いのよきよき可能性を発揮できるよう指導を工夫する。 ・マイホームタウンスクールとして、学校を核として地域の人々が交流を深め、新たな絆を生み出し、生涯にわたる人づくり・絆づくりを学校、家庭、地域が一体となって推進する。 3 体力・健康・安全(たくましく) ・20分休みのランニングや短縄跳び、外遊びを計画的に励行し、運動の機会を充実させ、児童の体力向上を図る。 ・感染状況に応じた対策を行うとともに食育も進め、児童と教職員が、心身ともに健康で安全に学校生活を送れるように努める。					○時間は学校時間内におさめる。先生も子供達も多くなつていけるように感じます。幸福度が高ければいい、そうではないという事は、もっと肩の力を抜いて、無心になってもいいような気がします。求め過ぎでいて、今を幸せと思えないのは、他者にも向かうかと思ひます。 ・教先生方の自己評価が概ねAとBという事に、まずは驚きました。これは今年度に向けて掲げた改善案に則り、諸先生方おとりおひとなりか自己意識を高め実践してきた結果と思われまふ。学力向上のみに偏らず、道徳教育に重点を置き学校独自の項目として豊かな心を育む事も目的とし、尚且つ心身ともに健康な体を作る活動にも取り組まれば素晴らしいと思ひました。 ○学力・体力等の結果について、それぞれ分析し、指導について工夫。そして次年度に向けて課題検討していく。これは大変な仕事だと思ひますが、次にいかなければいけないことと感ひしています。引き続き取り組みをお願いします。 ・学校全体で課題や目標を共有できていると感じています。引き続き、協議会で考えていただければと思ひます。 ○学校運営協議会を通じて、先生方が子どもたちのために頑張つてくださっていることをより強く実感することができました。このことをもっと他の保護者の方々にも伝える機会があると思ひました。先生方が子どもたちのために、どれだけ時間と労力を費やしているが知つてほしいです。 ・学校の組織体制、教職員の指導、児童の学校生活など、学校での日々の教育活動はどれも円滑に行われていると考えられます。課題のある児童への個別支援・指導についても、組織力を生かして対応していただいているものと考えられます。これからは、「寄り添う」姿勢と教職員の業務の両立をお願いします。 ・道徳教育の委嘱研究で得た大きな成果は、児童にも確実にプラスの影響を及ぼしているものと考えます。充実した指導が来年度以降も継続・発展していくことを期待するとともに、児童が進学してからの北本市でもさらなる充実が図れるようにしていきたいと思ひます。 ・学校が、新しいことに挑戦しつゝ一生懸命何かをやろうとすると、負担感や在校等時間の増大などの懸念がついて回る時代となりました。これでも継続してた取組でもゼロベースで見直す姿勢を忘れず、教職員が健康で私生活の充実も図れるよう引き続き取り組みをお願いします。		
北本市立 学校 学校運営協議会(敬称略)					外部評価実施日		
会長 福島 洋輔 副会長 浅野 美華 委員 吉田 良江 委員 新井 陽子 委員 諏訪 千加子 委員 佐藤 真一 委員 横山 桂子 委員 李沢 幸代 委員 中西 勇太 委員 内田 浩子					第1回 令和7年1月28日(火) 第2回 令和7年2月20日(金)		

＊「自己評価の適切さ」について

A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である

＊「改善に向けた取組の適切さ」について

A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる
C:あまり効果が期待できない D:効果が期待できず改善を要する

＊学校の取組に関する評価と今後の改善点等について

・評価項目ごとの取組状況に対する評価や今後に向けての要望等を記入する。
・自己評価書の項目を網羅的に評価するのではなく、「自己評価の高かった(低かった)項目」や「今年度の重点的な取組」に絞って記入する。

＊その他全体的な留意点

・外部評価書は1枚にまとめる必要はありません。(2枚以上可)
・共通項目と学校独自の項目を別様にて作成してもかまいません。
・学校独自の評価項目、評価項目数は、各学校で決めて下さい。
・学校運営協議会の総評欄は、共通項目、学校独自の項目の両方を踏まえての総評を記入してください。